

○

マインション・502号室・リビング（深夜）
室内では鑑識・502号室・リビング（深夜）
を駆使して鑑識・502号室・リビング（深夜）
部屋の端では捜査を進めている。椅子
に座って泣いて、清嶋嶺子（48）、椅子
とその横では泣いて、木下佳奈（22）、ノート
と鉛筆を持って、座っている。

○

同・捜査（深夜）
鑑識・同・捜査（深夜）
部屋の隅に置かれた白い机では、椅子に
座った状態で男性の背中を包丁で刺され、
机の横に倒れて、死んでいる。映画のポスター
壁には、古いアイドリや映画のポスター
などが貼られている。机の上には、古い時計、
セッティング、アナログ時計、駄菓子
置かれて、プールの机の上には、アナログ時計、
駄菓子が

○

同・リビング（深夜）
警部の鳥山秀樹（52）、入ってくる。

鑑識

「秀樹、お疲れ様です。」
「あの方達は？」
「この被害者の奥さんの清嶋嶺子さん、

鑑識

「この被害者の奥さんの清嶋嶺子さん、
隣の木下佳奈さんです。」

鑑識

「はい。奥さんが、彼女にしか話した
くない。」

秀樹

「秀樹、嶺子か。」
「うん。」
「奥さんが、彼女にしか話した
くない。」

秀樹

「鳥山の度には、ご愁傷様です。私、警部の
鳥山です。」

嶺子

「嶺子は、小さな声で、捕まえてください。」

嶺子

「嶺子は、小さな声で、捕まえてください。」

秀樹

「だ、大きな声で、必ず犯人を捕まえてく
鑑識、

鑑識、嶺子の行動に驚きを見せる。

秀樹「奥さん。しゃがんで、
嶺子「必ず、落ち着いてください。必ず、捕まえま

佳奈「佳奈、嶺子の魔を立たせ、はいけませんから」

秀樹「現場は？」「書斎を見て、鑑識に、
鑑識「あちらです」
秀樹「書斎に入っ行く。」

○ 同・書斎（深夜）
秀樹「鑑識、入って来る。近づく。」

鑑識「状況は？」「通り、背後から包丁で刺され
て死亡しています。死亡推定時刻は昨晩
の10時ごろ。奥さんから通報がありま
した。指紋は出てません。ただ、害者の
ポケットから奥さんからは何か聞き出せた

秀樹「？」「いいえ。我々には何も
鑑識「そうか。引き続き頼む」

鑑識「リビングに向かう。」

○ 同・リビング（深夜）
秀樹「（佳奈に）少しいいですか？」

佳奈「秀樹、はい。佳奈と一緒に話して別居していいですか？」
「奥さんは何か喧嘩しましたか？」
「旦那さんとは喧嘩して別居してました。旦那さんが亡くなりしうと家に戻った旦

秀樹 「そうですか。奥さんは、何故あなたに

「しか話さないんですか？」

佳奈 「「分かりますません」ですか？」

「あなたと奥さんの関係は？」

鑑識 「「鑑識、書斎から出てきて、

「鑑識、書斎から出てきて、

秀樹 「「鑑識、書斎から出てきて、

「鑑識、書斎から出てきて、

佳奈 「「鑑識、書斎から出てきて、

「鑑識、書斎から出てきて、

秀樹 「「鑑識、書斎から出てきて、

「鑑識、書斎から出てきて、

「鑑識、書斎から出てきて、

（佳奈に）引

○ 同・書斎（深夜）

鑑識 「「この事件、快樂殺人かもしれません」

「この事件、快樂殺人かもしれません」

「この事件、快樂殺人かもしれません」

「この事件、快樂殺人かもしれません」

「この事件、快樂殺人かもしれません」

「この事件、快樂殺人かもしれません」

「この事件、快樂殺人かもしれません」

「この事件、快樂殺人かもしれません」

「この事件、快樂殺人かもしれません」

「この事件、快樂殺人かもしれません」

女性「動画は終了するのは、美しい」

○ 同・同・同（深夜）

秀樹「この腕時計：」

秀樹「開きっぱなしと扉の向こうに見える佳奈

秀樹「を見る、彼女のものと同じじゃないか？ この

鑑識「鉛筆も、」

秀樹「いや：」

秀樹「彼女、嶺子と話している佳奈を観察して、

鑑識「もう一度、タブレットの映像を見る。こ

秀樹「指紋も残さずに見事な部屋の装飾。こ

鑑識「んな簡単なミス犯すか？」

鑑識「鑑識「右手の甲にホクロがあります」

鑑識「形の配置にホクロがある。三角形のような

秀樹「秀樹にタブレットを渡し、リビングに向

秀樹「う。リビングでは、鑑識「佳奈に話しかけ

秀樹「っている。停止した動画を見て、

鑑識「仮面の女性の顔をアップにする。やっぱりあ

秀樹「「大きな声で」警部！

面から「話は一見か、瞳をアップにする。仮

の姿が映っている。包丁を持った嶺子